

総合微生物科学分科会（第25期第3回）議事要旨

日 時：令和3年9月17日（金）10：00～11：35

会議形式：オンライン会議

出席者（敬称略）：小林武彦、岩崎渉、岡部聡、岡村好子、鏡味麻衣子、春日文子、
小柳義夫、笹川千尋、関崎勉、竹田潔、西山真、長田裕之

陪席者（敬称略）：丸山恵子（学術会議事務局）

欠席者（敬称略）：赤池孝章、松浦善治、米田美佐子

- ・議事に入る前に、出席委員からの自身の専門領域の紹介を行った

議 題：

（1）本邦における微生物科学の中長期的な諸問題への対応

- ・今回の新型コロナウイルス感染症のパンデミックに際して、新規のウイルス研究に関連した組換えDNA実験に関して、研究の遅れが生じた。

平時、有時の対応方法を変えていくことも必要ではないか。

メタゲノム解析が進み同定される機能未知の遺伝子の解析は大臣確認になり、承認を得ることが簡単ではない。この点も研究開発の進展の支障になるのではないか。

- ・合成生物学として新規生物を創成することについて

これまでも学術会議で大きな議論があった。

今後も慎重な議論が必要である。

研究者の立場から、自由に研究できる環境が必要、一方社会の目から研究者を守るために規制・内規が必要である。

社会の目、という観点から、有時には迅速な承認体制の構築が必要である。

次のパンデミックに備えるための感染症基礎研究は極めて重要で、それを支援する体制の構築が必要である。

- ・病原微生物研究の規制について：例えば、アスペルギルスの一つの病原微生物とすることが問題。中には非病原性のアスペルギルスがあるので、画一的な病原微生物の規制にならないようにする働きかけが必要である。

（2）その他

- ・微生物学教育の重要性について：近年微生物研究者層が極めて希薄になっており、若手研究者、女性研究者の育成が喫緊の問題である。